

**病床機能報告 定量基準分析結果（南西部）  
（平成29年度,平成28年度）**

**埼玉県保健医療部保健医療政策課**



# 平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【南西部圏域】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	埼玉県計			南西部圏域			備考		
			該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	1日当たり入院患者数		基準該当病床数	病床稼働率
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病床	548人/日	835床	65.7%	9病床	33人/日	44床	75.1%	
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病床	1,858人/日	2,508床	74.1%	10病床	334人/日	429床	77.8%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	343病床	11,780人/日	14,764床	79.8%	19病床	680人/日	797床	85.3%	
		回復期	262病床	6,604人/日	9,746床	67.8%	23病床	569人/日	893床	63.7%	
	回復期/リハビリ病床	回復期	74病床	3,103人/日	3,448床	90.0%	7病床	234人/日	270床	86.7%	
特殊疾患病床・障害者施設等	医療療養病床	慢性期	59病床	2,457人/日	2,839床	86.5%	11病床	447人/日	477床	93.7%	
		慢性期	172病床	6,921人/日	8,067床	85.8%	11病床	439人/日	522床	84.1%	
	介護療養病床	慢性期	9病床	370人/日	464床	79.8%	0病床	0人/日	0床		
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病床	207人/日	342床	60.6%	1病床	4人/日	4床	91.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病床	1,488人/日	2,260床	65.8%	6病床	50人/日	123床	40.4%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	183人/日	336床	54.5%	0病床	0人/日	0床		医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病床	308人/日	533床	57.9%	2病床	42人/日	67床	62.8%	
	回復期	2病床	26人/日	47床	54.4%	0病床	0人/日	0床			
	急性期	5病床	76人/日	114床	67.0%	0病床	0人/日	0床			
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	7病床	82人/日	131床	62.7%	0病床	0人/日	0床		放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期									

4機能区分	埼玉県計			南西部圏域			2025年の必要病床数 (地域医療構想)			
	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	1日当たり入院患者数		基準該当病床数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)
高度急性期	185病床	2,797人/日	4,021床	69.6%	20病床	371人/日	477床	77.7%	325床	425床
急性期	457病床	13,652人/日	17,671床	77.3%	27病床	772人/日	987床	78.2%	2,385床	1,685床
回復期	338病床	9,733人/日	13,241床	73.5%	30病床	803人/日	1,163床	69.1%	275床	1,356床
慢性期	247病床	9,830人/日	11,501床	85.5%	22病床	886人/日	999床	88.7%	1,070床	1,311床
入院料に関する報告がなかつた病床	35病床	102人/日	512床	20.0%	0病床	0人/日	0床			
休棟・病床機能報告に無回答の病床										15床
合計等	1,262病床	36,114人/日	46,946床	76.9%	99病床	2,832人/日	3,626床	78.1%	4,070床	4,777床

注：「合計等」欄の許可病床数の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある。

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

埼玉県	南西部
高度急性期	23床
急性期	14床
回復期	295床
慢性期	5床
休棟・未報告等	116床
計	14床
計	444床



# (参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果【南西部圏域】

大区分	入院科・診療科	4機能区分		埼玉県計			南西部圏域			備考
		該当病床数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	基準該当病床数	病床稼働率			
成人の医療等	救命救急・ICU等 一般病床・ 地域包括ケア病床等	高度急性期	80病床	733床	61.9%	8病床	40床	56.9%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分	
		高度急性期	71病床	2,852床	79.1%	9病床	403床	79.1%		
		急性期	292病床	12,713床	78.1%	18病床	744床	81.5%		
		回復期	257病床	9,968床	65.3%	19病床	798床	47.8%		
	回復期リハビリ病床 特殊疾患病床・障害者施設等	回復期	60病床	2,737床	86.5%	6病床	222床	72.5%		
		慢性期	44病床	2,027床	89.5%	7病床	308床	91.5%		
		慢性期	147病床	6,837床	88.9%	8病床	373床	94.7%		
	介護療養病床	慢性期	12病床	587床	87.2%	2病床	72床	79.9%		
		高度急性期	26病床	581床	96.2%	2病床	18床	93.2%		
		急性期	61病床	1,550床	67.9%	5病床	109床	26.7%		
周産期	産科の一般病床	高度急性期	3病床	116床	79.4%	0病床	0床	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分		
		急性期	19病床	723床	46.7%	2病床	67床		31.9%	
小児	小児入院管理料・ 小児科の一般病床等	回復期	3病床	87床	70.5%	0病床	0床			
		急性期	4病床	97床	63.6%	0病床	0床			
緩和ケア	緩和ケア病床	慢性期	6病床	99床	65.3%	0病床	0床	放射線治療の実施がある病床を急性期、な い病床を慢性期とする		
		急性期	4病床	97床	63.6%	0病床	0床			

4機能ごとに集計

4機能区分	埼玉県計			南西部圏域		
	該当病床数	基準該当病床数	病床稼働率	該当病床数	基準該当病床数	病床稼働率
高度急性期 計	180病床	4,282床	78.5%	19病床	461床	77.7%
急性期 計	376病床	15,083床	75.5%	25病床	920床	71.4%
回復期 計	320病床	12,792床	69.9%	25病床	1,020床	53.2%
慢性期 計	209病床	9,550床	88.7%	17病床	753床	92.0%
入院料に関する報告がな く分類できない病床 の病床機能報告に無 回答の病床	27病床	318床	14.4%	1病床	1床	32.8%
合計等	1,112病床	42,025床	76.6%	87病床	3,155床	71.3%
2025年の 必要病床数 (地域医療構想)						
						425床
						1,685床
						1,356床
						1,311床
						—
						64床
						4,021床
						4,777床

注：「合計等」欄の許可病床数（埼玉県計=42025床、南西部圏域=3155床）の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床がある（埼玉県計=8347床、南西部圏域=866床）。（参考）各医療機関の報告上の機能

（高度急性期：0床 急性期：439床 回復期：48床 慢性期：323床 未報告：56床）

平成28年度病床機能報告のデータから作成



# 平成29年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	87病床	548人/日	835床	65.7%	
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	67病床	1,858人/日	2,508床	74.1%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	343病床	11,780人/日	14,764床	79.8%	
		回復期	262病床	6,604人/日	9,746床	67.8%	
	回復期/ハビリ病床	回復期	74病床	3,103人/日	3,448床	90.0%	
周産期	特殊疾患病床・障害者施設等	慢性期	59病床	2,457人/日	2,839床	86.5%	
	医療療養病床	慢性期	172病床	6,921人/日	8,067床	85.8%	
	介護療養病床	慢性期	9病床	370人/日	464床	79.8%	
	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	20病床	207人/日	342床	60.6%	
	産科の一般病床	急性期	93病床	1,488人/日	2,260床	65.8%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	11病床	183人/日	336床	54.5%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	16病床	308人/日	533床	57.9%	
		回復期	2病床	26人/日	47床	54.4%	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	5病床	76人/日	114床	67.0%	放射線治療の実施がある病床を急性期、慢性期を慢性期とする
		慢性期	7病床	82人/日	131床	62.7%	

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	各医療機関が報告した病床数 (H29病床機能報告)	2025年の必要病床数 (地域医療構想)
高度急性期 計	185病床	2,797人/日	4,021床	69.6%	6,365床	5,528床
急性期 計	457病床	13,652人/日	17,671床	77.3%	24,702床	17,954床
回復期 計	338病床	9,733人/日	13,241床	73.5%	4,830床	16,717床
慢性期 計	247病床	9,830人/日	11,501床	85.5%	13,013床	14,011床
入院料に関する報告がなく分類できない病床の病床	35病床	102人/日	512床	20.0%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	1,772床	—
合計等	1,262病床	36,114人/日	46,946床	76.9%	50,682床	54,210床

注：病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が3,736床ある。

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

埼玉県	病床数
高度急性期	23床
急性期	1,007床
回復期	138床
慢性期	1,251床
休棟・未報告等	1,317床
計	3,736床



# (参考) 平成28年度病床機能報告 定量基準分析結果【埼玉県全体】

大区分	入院料・診療科	4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	備考
成人の医療等	救命救急・ICU等	高度急性期	80病床	454人/日	733床	61.9%	
	一般病床・地域包括ケア病床等	高度急性期	71病床	2,257人/日	2,852床	79.1%	区分線1・区分線2によって高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	292病床	9,935人/日	12,713床	78.1%	
		回復期	257病床	6,511人/日	9,968床	65.3%	
	回復期/リハビリ病床	回復期	60病床	2,367人/日	2,737床	86.5%	
	特殊疾患病床・障害者施設等	医療療養病床	慢性期	44病床	1,814人/日	2,027床	89.5%
慢性期			147病床	6,081人/日	6,837床	88.9%	
慢性期			12病床	512人/日	587床	87.2%	
周産期	MFICU・NICU・GCU	高度急性期	26病床	559人/日	581床	96.2%	
		急性期	61病床	1,052人/日	1,550床	67.9%	
小児	小児入院管理料・小児科の一般病床等	高度急性期	3病床	92人/日	116床	79.4%	医師・看護師の配置要件等を勘案し、入院料の種類に応じて高度急性期・急性期・回復期に区分
		急性期	19病床	337人/日	723床	46.7%	
		回復期	3病床	61人/日	87床	70.5%	
緩和ケア	緩和ケア病床	急性期	4病床	62人/日	97床	63.6%	放射線治療の実施がある病床を急性期、ない病床を慢性期とする
		慢性期	6病床	65人/日	99床	65.3%	

4機能区分	該当病床数	1日当たり入院患者数	基準該当病床数	病床稼働率	平成28年度病床機能報告において各医療機関が報告した病床数	地域医療構想における2025年の必要病床数
高度急性期 計	180病床	3,362人/日	4,282床	78.5%	6,707床	5,528床
急性期 計	376病床	11,386人/日	15,083床	75.5%	24,118床	17,954床
回復期 計	320病床	8,939人/日	12,792床	69.9%	4,437床	16,717床
慢性期 計	209病床	8,472人/日	9,550床	88.7%	12,965床	14,011床
入院料に関する報告が分類できない病床の病床	27病床	46人/日	318床	14.4%	—	—
休棟・病床機能報告に無回答の病床	—	—	—	—	2,145床	—
合計等	1,112病床	32,205人/日	42,025床	76.6%	50,372床	54,210床

注：表の42,025床の他に、病床機能報告に未報告部分がある・病床機能報告の様式1と様式2とが突合しない等の事由から、分析対象に含まれない病床が8,347床ある。

(参考) 未分析病床分 (各医療機関が報告した病床機能)

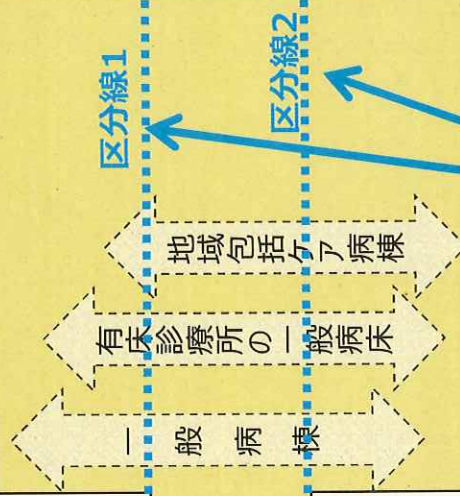
埼玉県	病床数
高度急性期	115床
急性期	2,497床
回復期	775床
慢性期	2,692床
休棟・未報告等	2,268床
計	8,347床



# 埼玉県病床機能報告定量基準分析の枠組み

- 「ICU→高度急性期」「回復期リハ病棟→回復期」「療養病棟→慢性期」など、**どの医療機能と見なすが明らかな入院料の病棟**は、当該医療機能として扱う。
- 特定の医療機能と結びついていない**一般病棟・有床診療所の一般病床・地域包括ケア病棟（周産期・小児以外）**を対象に、具体的な機能の内容に応じて客観的に設定した**区分線1・区分線2**によって、高度急性期/急性期/回復期を区分する。
- 特殊性の強い周産期・小児・緩和ケアは切り分けて考える。

4機能	大区分			緩和ケア
	主に成人	周産期	小児	
高度急性期	救命救急 ICU SCU HCU	MFICU NICU GCU	小児入院医療 管理料1	
急性期	一般病棟	産科の一般病棟 産科の有床診療所	小児入院医療管理料2,3 小児科の一般病棟7:1	緩和ケア病棟 (放射線治療あり)
回復期	回復期 リハビリ病棟		小児入院医療管理料4,5 小児科の一般病棟7:1以外 小児科の有床診療所	
慢性期	療養病棟 特殊疾患病棟 障害者施設等			緩和ケア病棟 (放射線治療なし)



具体的な機能に応じて区分線を引く



## 機能区分基準の考え方

- ① 病床機能報告のうち、主に「具体的な医療の内容に関する項目」のデータの中から、外科的治療・内科的治療・全身管理等の幅広い診療内容を加味して基準を構成。
- ② 区分線1のしきい値は、救命救急入院料やICUの大半が、高度急性期に区分される程度とする。
- ③ 区分線2のしきい値は、一般病棟7：1の大半が、高度急性期・急性期に区分される程度とする。
- ④ 区分線1・2を設定した結果、高度急性期・急性期・回復期の1日あたり入院患者数が、「埼玉県地域医療構想における現在（2013年）の需要推計」との間に大きな齟齬がないか確認する。

ただし、実際には各病棟にはさまざまな病期の患者が混在する中で、病棟単位での集計結果に応じて区分するため、ある病棟が、わずかな機能の差によって、「急性期の病棟」に区分されたり「回復期の病棟」に区分されたりし、それに応じて「急性期の病床数」も大きく変わる。

**区分線には「絶対の閾値」があるわけではなく、ある程度の幅をもたせて考えることが必要。**



## 高度急性期・急性期の区分（区分線1）の指標

○救命救急やICU等において、特に多く提供されている医療

- A : 【手術】全身麻酔下手術
- B : 【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- C : 【がん】悪性腫瘍手術
- D : 【脳卒中】超急性期脳卒中加入
- E : 【脳卒中】脳血管内手術
- F : 【心血管疾患】経皮的冠動脈形成術
- G : 【救急】救急搬送診療料
- H : 【救急】救急医療に係る諸項目 (☆)
- I : 【救急】重症患者への対応に係る諸項目 (☆)
- J : 【全身管理】全身管理への対応に係る諸項目 (☆)

☆…病床機能報告のデータ項目のうち、救命救急やICU等で算定が集中しているものに限定。

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数を指標に用い、しきい値を設定。



# 区分線1で高度急性性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

	区分線1で高度急性性期に分類する要件	しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）				地域包括 ケア病棟
		稼働病床1床当た りの月間の回数	40床の病棟 に換算した場合	救命・ ICU・ SCU・	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 7:1以外 (※)	有床診の 一般病床 (※)	
手術	A 全身麻酔下手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	42.5%	1.9%	0.5%	2.2%	0.0%
	B 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	21.8%	3.0%	0.0%	0.0%	0.0%
がん	C 悪性腫瘍手術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	2.7%	0.5%	0.0%	0.0%
	D 超急性性期脳卒中加算	あり	あり	16.1%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
脳卒中	E 脳血管内手術	あり	あり	21.8%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%
	F 経皮的冠動脈形成術	0.5回/月・床以上	20回/月以上	25.3%	1.6%	1.0%	0.0%	0.0%
心血管疾患	G 救急搬送診療料	あり	あり	11.5%	0.8%	0.0%	0.0%	算定不可
	H 救急医療に係る諸項目（下記の合計） ・救命のための気管内挿管 ・体表面・食道ペーシング法 ・非開胸的心マッサージ ・観血的肺動脈圧測定 ・持続緩徐式血液濾過 ・大動脈バルーンパンピング法 ・経皮的心肺補助法 ・人工心臓	0.2回/月・床以上	8回/月以上	64.4%	3.0%	1.0%	5.4%	0.0%
救急	I 重症患者への対応に係る諸項目（下記の合計） ・頭蓋内圧持続測定(3時間超) ・人工心肺 ・血漿交換療法 ・吸着式血液浄化法 ・血球成分除去療法	0.2回/月・床以上	8回/月以上	48.3%	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	J 全身管理への対応に係る諸項目（下記の合計） ・観血的動脈圧測定(1時間超) ・ドレーン法	8.0回/月・床以上	320回/月以上	43.7%	1.4%	0.5%	0.0%	0.0%
全身管理	上記A～Jのうち1つ以上を満たす			89.7%	14.2%	4.2%	7.6%	0.0%

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科であるものを除く。

92.5%	16.8%	4.0%	6.4%	0.0%
-------	-------	------	------	------

(参考) 平成28年度該当病床割合



## 急性期・回復期の区分（区分線2）の指標

○一般病棟7：1において多く提供されている医療

- K：【手術】手術
- L：【手術】胸腔鏡・腹腔鏡下手術
- M：【がん】放射線治療
- N：【がん】化学療法
- O：【救急】救急搬送による予定外の入院

○一般病棟や地域包括ケア病棟で共通して用いられている指標

- P：【重症度、医療・看護必要度】  
基準（「A得点2点以上かつB得点3点以上」「A得点3点以上」「C得点1点以上」）を満たす患者割合

→これらの医療内容に関する稼働病床数当たりの算定回数等を指標に用い、しきい値を設定。

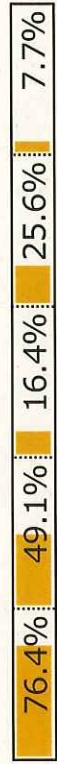


# 区分線2で急性期に分類される病棟の割合（平成29年度報告）

	区分線2で急性期に分類する要件	しきい値		該当する病棟の割合（選択都道府県）					地域包括 ケア病棟
		稼働病床1床当た りの月間の回数	40床の病棟 に換算した場合	一般病棟 7:1 (※)	一般病棟 10:1 (※)	その他 一般病棟 (※)	有床診の 一般病床 (※)		
手術	K 手術	2.0回/月・床以上	80回/月以上	8.5%	5.7%	2.9%	19.6%	0.0%	
	L 胸腔鏡・腹腔鏡下手術	0.1回/月・床以上	4回/月以上	18.0%	12.3%	1.4%	1.1%	0.0%	
がん	M 放射線治療 (レプト枚数)	0.1枚/月・床以上	4枚/月以上	9.3%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	
	N 化学療法 (日数)	1.0日/月・床以上	40日/月以上	18.3%	2.5%	1.4%	2.2%	0.0%	
救急	O 予定外の救急医療入院の人数	10人/年・床以上	33.3人/月以上	17.8%	12.3%	4.3%	0.0%	0.0%	
重症度等	P 一般病棟用の重症度、医療・看護必要度を満たす患者割合	25%以上	25%以上	65.3%	42.6%	0.0%	0.0%	4.5%	
				83.3%	58.2%	11.4%	27.2%	4.5%	

上記K～Pのうち1つ以上を満たす

※…主たる診療科が産科・産婦人科・小児科・小児外科・小児外科であるものを除く。



(参考) 平成28年度該当病床割合